

# 東京能樂囃子科協議会

能樂公演 九月定式能

図案 樹下龍児

平成三十年九月十二日 (第二水曜日)  
午後十八時開演 (午後十七時開場)

助成



文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術創造活動活性化事業)

公益信託 稻生雅治・恵子能楽振興基金

主催

一般財団法人 東京能楽囃子科協議会  
協力 公益社団法人 能楽協会

東京能楽囃子科協議会定式能 九月夜能 平成三十年九月十二日(水) 午後六時 開演

解説 宮本圭造

《舞囃子》

觀世流 賀茂 梅若 紀彰 柿原 崇志 小寺 佐七  
素働 幸 正昭 松田 弘之

川口 晃平 角当 直隆  
長山 桂三 山崎 正道  
馬野 正基

《二調》

喜多流 柏崎 粟谷 能夫 龜井 俊一  
道行

是界 朝倉 俊樹 金春 國直

和泉流 《狂言》 空腕 野村 萬 野村 万蔵

【休憩 十五分】

喜多流

香川 靖嗣 半 蔀 宝生 欣哉 國川 純 一噌 隆之  
立花 能村 晶人 鶴澤洋太郎

友枝 真也 長島 茂  
塩津 哲生 金子敬一郎 粟谷 能夫  
中村 邦生 狩野 了一 友枝 昭世  
大島 輝久 粟谷 明生

立花 華道家元池坊 中野 幽山

終演予定 午後九時

狂言「空腕」

夕暮れ時に使いを命じられた臆病者の太郎冠者。主人の太刀を借りて出かけることになりませんが、道端の物陰に怯え、誰もいない闇の中で命乞いをする始末。心配になって跡を付けてきた主人に背中を叩かれると気絶してしまいます。ところがその後、家に帰ってきた太郎冠者が主人に語るいきさつは、実際とはずいぶん異なるようで……。「空腕」とは「いつわりの腕自慢」のこと。太郎冠者は一体どんな大法螺を吹くのでしょうか。

能「半蔀」立花

雲林院の僧(ワキ)が夏安居の期間に仏前に供えてきた立花の供養を行っているところからとなく一人の女(シテ)が現れ、白い花を仏前に捧げます。その花の名が夕顔であると明かし、自身の素姓についても「名前だけこの世に残り、今は亡き身」と告げ、居場所を「五条あたり」とだけ明かして姿を消します。

【中入】

参詣の男(アイ)から『源氏物語』の夕顔の上についての話を聞いた僧は、先ほどの女のことを打ち明けます。男との対話から夕顔の霊との出会いを悟った僧が、早速、五条に向かうと、そこには荒れ果てた古家の姿があり、中から女の声が聞こえてきます。菩提を弔いましょう、という僧の言葉に、女は半蔀を押し上げて姿を現し、光源氏と初めて出会ったあの日、夕顔の花を手折って光源氏に差し上げた昔の恋の思い出を物語ります。その思い出に浸りつつ、女は光源氏から贈られた一首の和歌に合わせて、昔を懐かしむ舞を舞うのでした。

シテには、「夕顔の上」と「夕顔の花」の二つのイメージが重ね合わせてあります。冒頭の立花供養の場も、「夕顔の花」の供養であると同時に、「夕顔の上」の成仏のための供養ともなっており、「立花」の小書が付く今回の演出では、その立花供養が中野幽山(一般財団法人池坊華道会理事)により実際の生け花の形で再現され、舞台を一層華やかに彩ります。

チケット料金(税込・一枚価格)

◆夜公演(9月12日)

指定A席	前売り	8,000円
	当日	9,000円
指定B席	前売り	6,000円
	当日	7,000円
学生席	前売り・当日共	2,500円

指定席・全席指定(学生券を除く)になります。学生券・公演当日に受付にて学生証をご提示ください。チケットのお申込みは各公演の三ヶ月前の1日10時より受付です(9月12日分は6月1日、12月12日分は9月1日)

【申込み受付】

- ◇ 東京能楽囃子科協議会オンラインチケットサービス  
http://nongaku-hayashika.com/ 携帯電話はごちからから ↓
- ◇ 観劇サイト「カンフェティ」チケットセンター  
http://confetti-web.com
- ◇ 電話受付 0120-240-540 (平日10時~17時)
- ◇ 国立能楽堂 電話 03-3423-1333-1
- ◇ お問い合わせ先 ●東京能楽囃子科協議会事務局  
電話 03-6804-3114  
email hayashikakyougikai@gmail.com

